



第 12 回シンポジウム 開催のご案内【予告】

- 日 時 2019年2月25日(月) 14時～17時30分
- 場 所 都市センターホテル
所在地：東京都千代田区平河町2-4-1
最寄駅：地下鉄麴町駅(有楽町線) 永田町駅(有楽町線・半蔵門線・南北線)
- テーマ 日本創生 よみがえれ!! 森林資源大国日本!!
～森林資源のフル活用で地域に新産業を創る～
- プログラム
 - 14:00 基調講演 農林水産事務次官 末松 広行 氏
「森林資源のフル活用を日本創生の起爆剤に ～現状と可能性～」
 - 14:45 講演
 - ① 森林資源のフル活用 ～『会津 the 13』の挑戦
会津森林活用機構株式会社 取締役 渡部 一也 氏
 - ② 地域資源循環と交流観光で未来の暮らしを創る『バイオマス産業都市‘真庭’』
真庭市長 太田 昇 氏
 - ③ 先進技術の導入と国産材安定供給体制の構築～あらゆるリソースの林業への活用～
住友林業株式会社 資源環境本部 山林部 グループマネージャー 岡田 広行 氏
 - 16:00 (休憩)
 - 16:10 パネルディスカッション
※ コーディネーター 秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授 高田 克彦 氏
※ パネリスト 4名
渡部 一也 氏、太田 昇 氏、岡田 広行 氏、林野庁木材産業課長 猪島 康浩 氏
 - 17:10 提言 プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
 - 17:25 閉会挨拶 プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道

■ シンポジウムの趣旨

- ① 日本は森林資源大国でありながら、その活用が不十分
 - ・ 日本の森林率は68.5%。OECD 諸国の中ではフィンランド(73.1%)、スウェーデン(68.9%)に次いで第3位。
 - ・ フィンランドやスウェーデンは木材輸出国だが、日本は木材自給率35%(2016年)で大幅な純輸入国。
 - ・ 日本の林業の付加価値生産額は2,500億円(GDPの0.05%)で豊富な森林資源を十分に活用できていない。
- ② 新たな森林管理システムの構築が必要
 - ・ 森林資源が十分に活用されていない理由は、1) 森林所有者の現状維持意向や経営意欲の不足、2) 森林所有者と林業経営者(規模拡大指向)とのミスマッチ、3) 路網整備や高性能林業機械の導入が不十分など(林業白書)
 - ・ これらの課題を解決するため、新たな森林管理システムの構築が必要。フィンランドやスウェーデンの成功事例を踏まえると、川上(林業)～川中(木材産業・エネルギー利用)～川下(利活用)の各段階での課題解決と、上流・中流・下流にまたがる一貫通貫でのシステムづくりがカギ



行政、自治体、企業の関係者が会し、森林資源の可能性と課題、資源フル活用による新たな産業や木造都市・木質生活のあり方を幅広く議論していただく。



■ 講演者のプロフィール

○ 基調講演

末松 広行 氏 農林水産事務次官

プロフィール 1983 年東京大学法学部卒、農林水産省入省。林野庁林政部長、関東農政局長、農村振興局長等を歴任、2016 年から経済産業省産業技術環境局長。2018 年 7 月から現職。

○ 講演団体の概要

1 会津森林活用機構株式会社

- ・ 福島県会津地域で 13 市町村の広域連携による森林資源フル活用事業「会津 the13」の主体として 2018 年 10 月に設立。
- ・ 会津若松市、喜多方市をはじめ 13 市町村の参加を定款に明記した新しいタイプの民間企業。
- ・ 川上から川下までのサプライチェーンを組み合わせ、森林資源を余すことなくフルに活用することを目指す。
- ・ 広域連携による一定の規模、皆伐→植林・育林、熱利用、CLT 等によりサステナブルな森林経営のスタイルを目指す。

2 岡山県真庭市

- ・ 2005 年に真庭郡、上房郡の一部の 9 町村が合併して誕生。人口 45,728 人 (H30.12.1 時点) 828 km²の面積 (うち森林面積 658 km²) を有する。
- ・ バイオマスを活用したまちづくりを進め、豊富な森林資源を有効活用した取組が全国的に注目を集める。
- ・ 産業と観光を融合した「バイオマスツアー真庭」は訪問者が年間 2,000 名を超えるなど真庭市のブランド商品として確立。
- ・ 発電能力 10,000kw のバイオマス発電所、市民や製材所等から林地残材や製材端材等を買取り燃料チップ等の資源として販売するバイオマス集積基地等、林業・木材産業の振興に取り組む。

3 住友林業株式会社 ※当会法人会員

- ・ 1691 年創業。1948 年創立。別子銅山の備林経営をルーツとして、総面積約 47,977ha (日本国土の約 800 分の 1 に相当) の社有林を保有し、経営管理を実施。
- ・ 国内から海外に至る、森林経営、木材加工・流通、住宅建築等、木に関する川上から川下までの幅広い事業を展開。
- ・ 近年は、一般住宅にとどまらない中大規模建築物の木造化・木質化推進や、木質バイオマス発電事業等、木材の新たな利活用に向けた取組みを推進している。
- ・ 2018 年 2 月、木造超高層建築の開発構想「W350 計画」を発表。同計画を、建築構法、環境配慮技術、使用部材や資源となる樹木の開発など未来技術へのロードマップとし、木造建築物の可能性を追求している。

○ パネルディスカッションコーディネーター

高田 克彦氏 秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授

プロフィール 1992 年北海道大学大学院農学研究科林産学専攻博士後期課程修了、科学技術庁科学技術特別研究員 (農林水産省・林野庁・森林総合研究所勤務)、九州大学農学部助手を経て、2001 年秋田県立大学木材高度加工研究所助教授。2007 年 4 月より現職。専門は森林資源学、森林遺伝学。

■ 参加お申込み方法

- ・ 募集開始時期 2019 年 1 月中旬
- ・ 申込方法 別途ご連絡
- ・ 参加費 無料